

歴史探訪

クラブ! 其の137

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

太古をつなぐ植物 ヤチヤナギ

県指定天然記念物「黒河湿地植物群落」(大久保町)は、東海地方固有の湿地で、シデコブシやシラタマホシクサなどの湿地植物が群生していることで知られています。春先に咲く、シデコブシの花を観察に行った方も多いのではないのでしょうか。東海地方の特徴的な性質を持つ黒河湿地は、県内でいち早く価値を認められ、天然記念物の湿地の分野で指定第1号となっています。

渥美半島では、シデコブシが注目



▲ヤチヤナギの花粉

されがちですが、黒河湿地で最も希少な植物はヤチヤナギです。これは寒冷地の植物で、日本では北海道のサロベツ湿原、群馬・新潟・福島にまたがる尾瀬ヶ原など北方の湿原に見られます。しかし、なぜか黒河湿地や四日市市の御池沼沢湿原にも見られるのです。このような暖かい場所にあることは極めて珍しく、貴重な自生地といえます。

歴史探訪クラブで、「な

んで植物の話を？」と思う

方がいるかもしれません。

田原市で一番古い遺跡である

宮西遺跡(大久保町)は、

かつて野田周辺の水田地帯

が湿原だったころ、湿原に

集まる動物を狩猟する人た

ちがくらしした場所でした。



●ヤチヤナギ(黒河湿地植物群落)

その湿原の植物が泥のようになってきた泥炭(3万年から2万5千年前の最終氷河期のもの)から、ある植物の花粉の化石が発見されました。分析では、ヤマモモ科のものと鑑定され、当時の寒い気候と花粉の形態から、ヤチヤナギの花粉であると結論づけられました。また、ヤチヤナギの花粉は、泥炭から見つかっ

た花粉の3分の1にも及び、氷河期の湿原周辺には、ヤチヤナギが多く群生していたことが分かりました。「黒河湿地のヤチヤナギは氷河期の生き残り」ともいわれてきたのですが、それを鮮やかに証明した分析結果でした。

発見されたヤチヤナギの花粉は、宮西遺跡の時代(旧石器・縄文時代始め)からさらに古い年代でしたが、宮西遺跡でくらしした人たちも、このヤチヤナギを見ていたに違いありません。もともと昔、寒く環境も全く違ったこの田原で、たくましく生き抜いた私たちの祖先が見た風景の一部を、黒河湿地で体感できます。

(増山)

今月の「表紙」

▼照りつける日差しをものともせず、鮮やかに咲くポーチュラカ。その花言葉の一つは「いつも元気」です。太陽の強い日差しが大好きで、暑くても夏バテしないこの花とは対照的に、撮影していた私はたった15分で汗だくでヘトヘト…。改めて体力のなさを実感しました。(O)

【表紙の写真】サンテバルクたはらのお花畑